

06

2つの写真の比較

プレビューウィンドウの表示モードの1つ「マルチプレビュー」では、2枚の写真を並べて表示できます。同じ写真の加工・補正前後の状態を比較することができるので便利です。

01 マルチプレビューに切り替える

マルチプレビューに切り替えるには、表示する写真をサムネイルウィンドウで選択し、ツールバーの[マルチプレビュー]ボタンをクリックします(P.36参照)。マルチプレビューには[複製プレビューモード]と[参照プレビューモード]という2つの表示モードが用意されているので、用途に応じて切り替えます(図1)。

また、画面左に表示される写真をメインプレビュー、右を参照プレビューと呼びます。メインプレビュー、参照プレビューは拡大/縮小、スクロールが連動するので、1回の操作で両方の写真の同じ位置を拡大して表示することができます。なお、この連動は[連動表示モード]をクリックすることで解除できます。



図1 マルチプレビュー

02 参照プレビューモード

マルチプレビューの[参照プレビューモード]では、メインプレビューに編集対象となる写真が、参照プレビューに比較対象となる写真が表示されます(図2)。参照プレビューに表示される写真には制約がなく、メインプレビューと同じ写真を表示することも、異なる

写真を表示することもできます。ただし、参照プレビューに表示した写真に対して補正や加工をすることはできず、あくまでメインプレビューに表示された写真との比較用途(補正前後の比較など)に利用します。



図2 参照プレビューモードでは、左右に同じ写真、異なる写真を並べ、左側の写真のみ編集できる

03 複製プレビューモード

マルチプレビューの[複製プレビューモード]では、左右に分割されたプレビューの左右両方に同じ写真が表示されます(図3)。補正や加工の結果は、左右両方のプレビューに同時反映されます。複製プレビューモードでは[連動表示モード]を無効にすることで、左右の

プレビューで写真の表示位置や表示倍率を別々にすることができるので、同じ写真のハイライト部とシャドウ部をそれぞれ拡大表示しながら、どちらも最適な状態になるように補正する、といった用途に利用します。



図3 複製プレビューモードでは、左右に同じ写真を並べ、同じ写真内の別々の箇所を比較しながら補正できる

06

カラー・テイスト

写真の色合いを変化させる[カラー・テイスト]では、用意されているテイストを選択するだけで、写真を色鮮やかにしたり、肌色を健康的にしたりできます。また、写真全体に粒状感を増すなど、かつてのフィルムカメラで撮影したようなレトロな風合いに仕上げることがもできます。

01 カラーとは?

パラメータ・コントロールの[カラー・テイスト]のリストからテイストを選択すると、写真の色合いを変化させることができます(図1)。ここで選択できるテイストは、彩度と色表現のパラメータ調整を複合的に行うもので、主に写真全体の色鮮やかさ、色合いを補正するためのものと考えるとよいでしょう。彩度は文字どおり、写真内の各色の鮮やかさを、色表現は記憶色、美肌色、フィルム調など、

色の傾向を決める指標となるパラメータです。[カラー・テイスト]を使った補正では、[自動露出補正](P.60参照)のように写真全体の傾向を解析して自動補正する機能とは異なり、テイストごとに決められたパラメータを機械的に適用するだけなので、特に彩度を上げるパラメータを含むテイストを適用する場合は、色濃くなりすぎて、色飽和を起こさないように注意する必要があります。

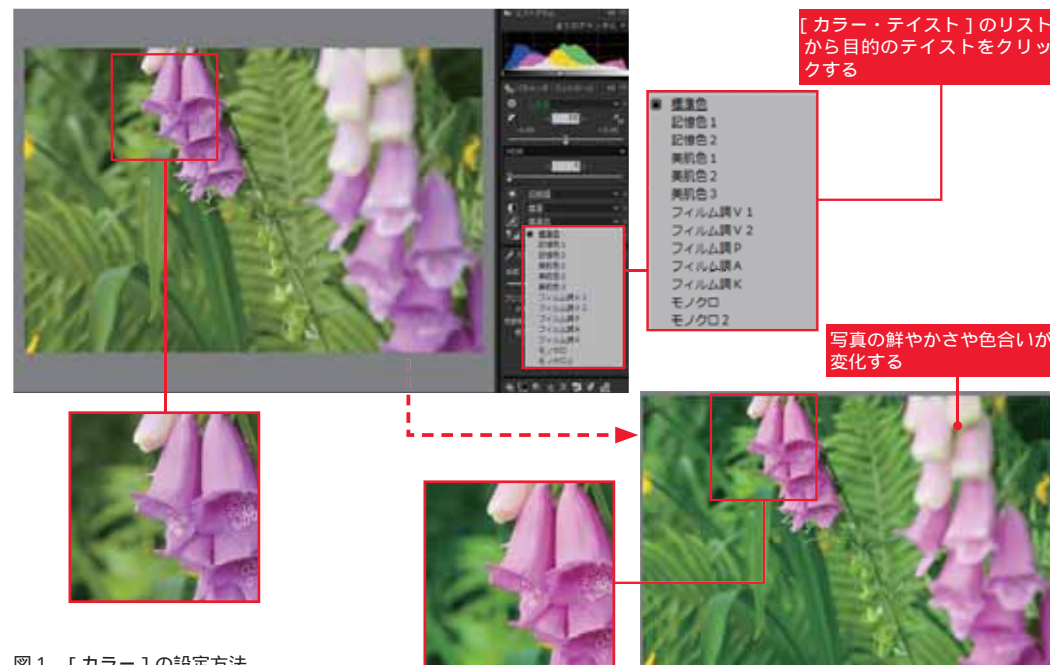


図1 [カラー]の設定方法

02 テイストによる仕上がりの違いを確認する

[カラー・テイスト]で選択できるテイストは、記憶色、美肌色、フィルム調、モノクロの4系統に大別されます。これらに加え、初期設定で選択されている[標準色]があり、他のテイストを選択した後で改めて[標準色]を選択し直すと、他のテイストによる補正を取り消すことができます。

記憶色

記憶色のテイストでは、写真全体の彩度を上げて、人間の記憶に残る「こうあってほしい色」に印象を近づけます(図2)。「こうあってほしい色」の方向性は、SILKYPIXで独自にチューニングされたものであるため、テイストの適用後も、イメージに近づけるために微調整が必要になることがあります。



図2 記憶色のテイストの適用前後

美肌色

美肌色のテイストでは、「理想の美肌」に印象を近づけるような補正を行います(図3)。SILKYPIXでは、美肌色として女性の肌色に対する「こうあってほしい色」を目指してチューニングされており、実際よりも赤みがかかり、彩度が低く、明度が高くなります。そのため、男性の肌色の補正には向いていないと感じる人もいるかもしれません。



図3 美肌色のテイストの適用前後

フィルム調

フィルム調のテイストでは、光源や露出によって色が大きく変化するリバーサルフィルムで撮影したような写真になります(図4)。全般的に彩度は抑えめで、現代的に各色のバランスが取れた写真とは一線を画するクラシカルな雰囲気になります。ただし、中間調の色合いは変化しないので、好みに合わせて[調子]のパラメータや、[ホワイトバランス]のパラメータの微調整をすることをお勧めします。



図4 フィルム調のテイストの適用前後

モノクロ

モノクロのテイストでは、写真をモノクロに変換します。単純な白と黒の2色で構成されたモノクロではなく、中間のグレーの階調も豊かに表現される自然なモノクロ写真に仕上げることができます(図5)。合わせて[ホワイトバランス]や[色表現]を調整すれば、さまざまなバリエーションのモノクロ写真を作ることができます。

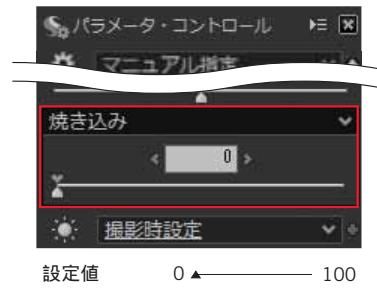


図5 モノクロのテイストの適用前後

03 焼き込み

▶ ハイライト部のみを暗く補正する

シャドウを基準に露光量が決定された写真では、ハイライト部分が白飛びしてしまい、ディテールが見えなくなってしまうことがあります。このような写真のハイライト部のみを暗く補正するには、[HDR/覆い焼き]の[焼き込み]に切り替えて、スライダーをドラッグします。



▶ ハイライト部を暗くする

パラメータ・コントロールの [HDR/覆い焼き] のリストから [焼き込み] を選択し、スライダーをドラッグすると、焼き込みの補正が可能です。P.90で解説したとおり、焼き込みはハイライト部を暗く補正するためのパラメータです。スライダーをドラッグして補正量を増やすほど、ハイライトを中心とした明部が暗くなり、白飛びなどが見えなくなったディテールが見えるようになります。覆い焼きと同様、ディテールをよみがえらせることができるかどうかは、元の写真にどれだけの情報が残されているかによって変わってくるため、情報の内包量が多いRAWデータは焼き込みによる補正の耐性が高いといえるでしょう。

▶ 露出などの補正も行う

[焼き込み]の補正では、写真のハイライト部分を自動的に検出し、スライダーをドラッグすることで明るすぎる部分の露光量を減らせます。その際、ハイライトを中心

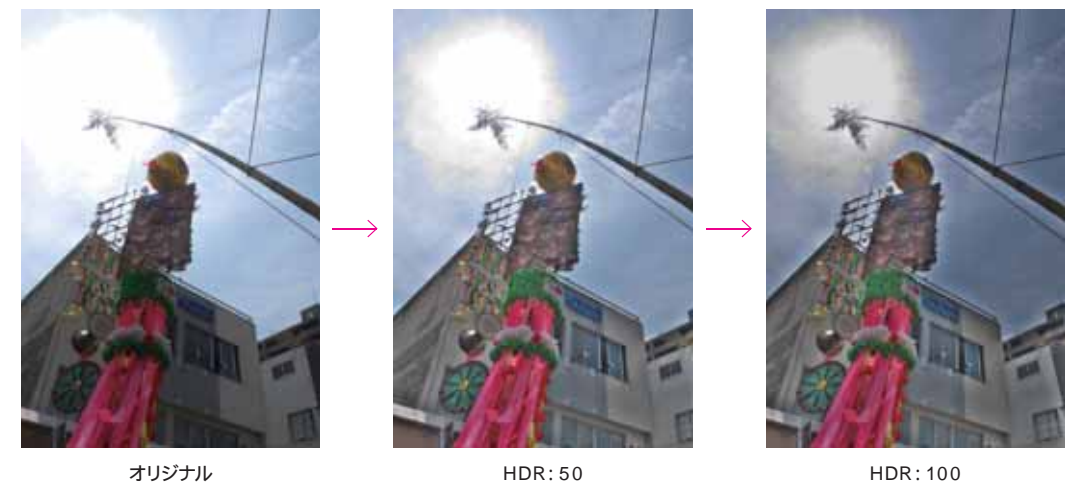
とした明部以外の部分の露光量は変化しないので、暗部が適正な露光量になっている写真のバランスは崩れません。

[焼き込み]による補正で、復元されたディテールをさらに際立たせるには、パラメータ・コントロールの [露出補正] のパラメータを調整したり、[調子] サブコントロールの [黒レベル] のパラメータを調整したりすると効果的です。ただし、[黒レベル] のパラメータを上げすぎると、元々シャドウが強かった部分がさらに黒く塗りつぶされてしまうことがあるので、全体のバランスを取りながら調整する必要があります。

04 HDR

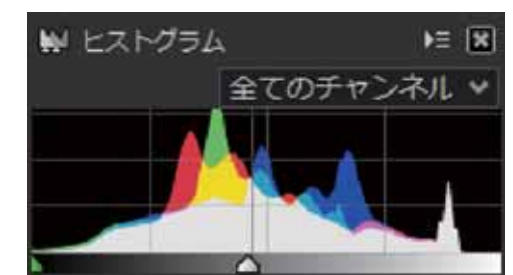
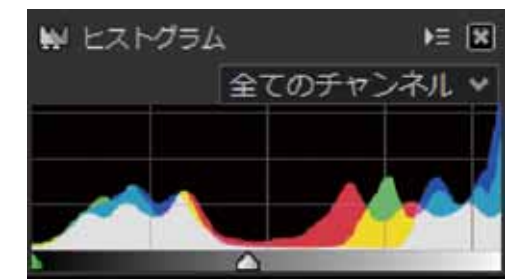
▶ ハイコントラストな写真のディテールを復元する

P.62で解説した「HDR」も、覆い焼き・焼き込みと同様に、ハイライトとシャドウの差が激しい写真で、双方のディテールを復元するための補正項目です。HDRではハイライトとシャドウの変化に合わせて中間調も補正されるので、写真を独特の雰囲気に出すことができます。



▶ 中間部分も合わせて調整する

パラメータ・コントロールの [HDR/覆い焼き] のリストから [HDR] を選択し、スライダーをドラッグすると、ドラッグした量に応じて写真の明るさ、色合いが変化します。HDRは、ハイライトとシャドウを同時に補正し、黒つぶれと白飛び部分のディテールを復元します。P.90の [覆い焼き・焼き込み] と効果は似ていますが、HDRはハイライトとシャドウの中間の明るさの部分（中間調）も補正するため、ディテールの復元効果はHDRの方が高くなります。ただし、HDRの適用量が強くなるとディテールの復元量も多くなり、場合によっては写真全体が暗い印象になることがあります。また、メリハリが強くなるため、写真が絵画的な雰囲気になることもあります。



オリジナル(上)とHDR:100(下)のヒストグラムの比較。中間色の密度が高くなっていることを確認できる

31 ファインカラーコントローラ [カラーサークル]

▶ カラーサークルを使って色を変化させる

[ファインカラーコントローラ]サブコントロールに用意されている円形のチャートが、「カラーサークル」です。カラーサークルは8色のブロックで構成され、目的の色の上でドラッグすると、写真内の同じ色の部分が変わります。ドラッグする方向によって、色がどのように変化するかが決まります。



オリジナル



色相 : +20 / 彩度 : +36.4

▶ 色相、彩度、明度をドラッグでコントロールする

[ファインカラーコントローラ]サブコントロールにある特徴的なインターフェースが、8色のブロックで構成された円形のチャート「カラーサークル」です。カラーサークルのそれぞれのブロックは、写真内の色を示しており、各ブロックの中央に表示される白点（操作点）をドラッグすると、ブロックの色と同系統の色が写真内で変化します。ドラッグする方向やドラッグの距離により、色相や彩度、明度のどれをどの程度変化させるのか決定されるので、複数の項目をまとめて、直観的に調整することができます。もちろん、次ページ以降のように、各調整項目のスライダーをドラッグして調整することもできます。その場合、[ファインカラーコントローラ]の[有効]にチェックを入れ、右側にある[調整色相]のリストから調整対象にする色を選択してから、各調整項目のスライダーをドラッグします。

なお、カラーサークルによる調整結果を破棄して、写真を元に戻すには、テストの[初期値]をクリックするか、[初期化]ボタンをクリックします。

▶ 写真内の色の位置を確認する

写真内の変化させたい色が、カラーサークルのどのブロックに含まれるのかわからないという場合は、[ファインカラーコントローラ]サブコントロールを表示した状態で、ポインタを写真内の目的の色の上に移動します。カラーサークルに現在ポインタがある位置の色が表示されるので、これを確認します。



ポインタの位置の色がカラーサークル上に「」表示される

32 ファインカラーコントローラ [色相]

▶ 特定の色の色味を変える

[ファインカラーコントローラ]サブコントロールの[色相]では、スライダーをドラッグして、選択した色の色味を変えることができます。たとえば、元の色が赤い部分をオレンジに近い赤、ピンクに近い赤に変化させ、被写体のイメージを一変させるといった用途に使うことができます。



色相 : -20 (対象色 : 赤)



オリジナル(色相 : 0)



色相 : +20

▶ 色相とは?

「色相」は色の系統のことです。いわゆる「赤っぽい色」「青っぽい色」といったように、似た印象の色、同じ系統の色は、同一の「色相」とあると言えます。色相は彩度（鮮やかさ）明度（明るさ）と並ぶ「色の属性」の1つです。

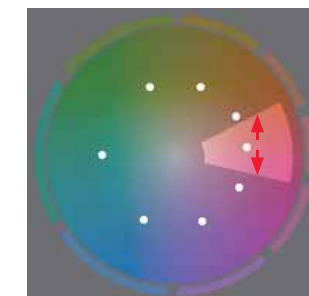
[ファインカラーコントローラ]の[色相]では、スライダーをドラッグすることで写真内の色の色相を変化させ、同一色相内の別の色に置き換えることができます。変化させる色は、[調整色相]のリストから選択するか、カラーサークルで目的の色のブロックをクリックします。

[色相]のスライダーを左方向にドラッグすると、カラーサークルの時計回り側に隣接するブロックの色に近づきます。右方向にドラッグすると、カラーサークルの反時計回り側に隣接するブロックの色に近づきます。たとえば、カラーサークルの赤のブロックを調整対象にする場合は、[色相]のスライダーを左方向にドラッグするとピンクに近い赤に、右方向にドラッグするとオレンジに近

い赤に、それぞれ色が変化していきます。

▶ カラーサークルで色相を変化させる

色相は[色相]のスライダーをドラッグするだけでなく、カラーサークルの操作点をドラッグしても変更できます。色相をカラーサークルから変化させるには、目的の色のブロックの操作点を時計回り側、反時計回り側のいずれかにドラッグします。それぞれ、ドラッグした方向に隣接するブロックの色に近づきます。



操作点を時計回り/反時計回り方向にドラッグして色相を変化させる